

# IMF サーベイ

IMF・世界銀行年次総会

## IMF、成長、雇用、金融部門改革で協調行動を呼びかける

IMF サーベイ・オンライン

2010年10月8日

- 協調は誰もがより豊かになれる「ウィン・ウインのプロセス」
- 各国が新たな成長源について考えることが必要
- 多国籍機関は世界経済の変化を反映すべき



ストロスカーン専務理事：「間違いなく持続的成長を、雇用の創出を、そして金融部門の改革を目指さなければならない。しかし、連携も目指さなければならない」（写真 IMF）

ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事は、IMF 及び世界銀行の加盟 187 カ国に対し、不確かな世界において信認を回復するためには、協調行動をとる必要があるとして、連携を呼びかけた。ストロスカーン専務理事は、ワシントン DC での、2010 年 IMF・世界銀行の年次総会の開会演説に立ち、各国が財政の持続可能性の回復、雇用創出を伴う成長の促進、並びに金融部門の改革の完了を中心に、尽力することが肝要だと述べた。

ストロスカーン氏は「不透明な世界において信認を回復するためには、協力しなければならない。人々が再び労働力として活躍できるようになるためには、協力しなければならない。我々の子供達、そして次の世代のために、より良いそしてより平和な世界を築くには、協力しなければならない。そして、この度の年次総会が、そのための場になると確信している」と述べた。

同専務理事は、各国間のつながりが大きく広がりが増す中、協調行動はウィン・ウインのプロセスであり、連携のもと適切な政策が講じられるならば、誰もがより豊かになれるとした。

同氏は、世界レベルでは経済が回復しているが、回復ペースが一様でないゆえに脆弱だと指摘した。アジア及び南米では順調に回復しており、またサブサハラ・アフリカの国々では過去の回復でのペースよりも、速い成長を見せている。一方、欧州及び米国の回復は、緩慢かつ低調となっている。

### 回復に立ちほだかるリスク

ストロスカーン専務理事は、IMF は、世界的な景気後退に後戻りする「二番底」は予想していないと述べた。しかし、回復に立ちほだかる 4 つの下振れリスクを示した。

- **公的債務。** 各国は中期的には財政の持続可能性への立ち返りを目標としつつ、短期的に成長を後押しするために財政余地を活用していくべき。
- **雇用なき回復。** 成長に雇用が伴っていないのであれば成長だけでは不十分。各国は雇用創出を伴う持続可能な成長を促進すべき。

- **金融部門改革。**より優れた監督と危機解決メカニズムで、金融規制は補完する必要がある。いかに優れた規制も監督なしでは何も達成できない。
- **協力へのコミットメントの弱まり。**世界は協調行動により世界恐慌並みの深刻な危機を回避したが、今日では協力へのコミットメントのてこ入れが必要になっている。

## 新たな成長の源

ストロスカーン専務理事は、世界金融危機の後の世界の成長モデルは、危機前のものと同じではないだろうと述べた。「グリーン成長など、新たな成長源について考える必要がある。成長構造の主軸としての官需と民需の再調整について、更に考える必要があることを意味する。また、黒字国と赤字国の間での再調整についても、考える必要があることを意味する。また、協力やガバナンスの強化の必要性も意味する」

IMFはガバナンスの見直しを進めていると述べ、多国籍機関が経済回復の促進に貢献しようとするのであれば、自らが正当であることが必要だと指摘した。正当であるためには、世界経済の変化を反映している必要がある。「これは、将来の勢力均衡は今日のものとは若干異なることを意味する」

多国籍機関における勢力均衡の変化は責任の上での変化を伴う。「これまでは国際制度の端に位置していた国々が、中心に位置し IMF のような機関がこれを反映することを望むのであれば、世界経済の安定性において、今まで以上の責任を負うことが求められる」

## 協力体制を目指す

ストロスカーン専務理事は「間違いなく持続的成長を、雇用の創出を、そして金融部門の改革を目指さなければならない。しかし、連携も目指さなければならないのだ」と述べた。「私がこの点にこだわるのは、世界レベルでの成長の向上とともに、グローバル化した世界では、協調行動が絶対に必要なのだという考えが、色褪せてしまうのではないかと危惧するからだ」

ロバート・ゼーリック世界銀行総裁は、総会に向けた演説で、世界需要の後押しとなり得る経済成長の複数の柱が、世界経済危機から立ち上がってきていると述べた。途上国はますます世界成長の原動力になってきているとも指摘した。但し、世界成長は、失業問題に大きく切り込めるほど力強くはないと述べた。

年次総会の冒頭で、議長のアグネシュ・オルトイン・アガンガ・ナイジェリア財務相は、世界危機は世界の全域に甚大な影響をもたらし、既存の問題をさらに悪化させるとともに新たな課題を作り出したと語った。「国際社会は今こそ、再発のおそれを減らし、マイナスの波及効果に対処し、弱者を守り、そして強固かつ持続可能、雇用創出効果に富んだ、裾野の広い成長の土台を築くような国際金融制度を、新たに構築しなければならない」